

経済・金融 フラッシュ

8月 BOE 金融政策委員会：景気減速感強まるも、据え置き継続

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり
TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は6～7日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利の5.0%での据え置きを決めた。据え置きの背景には、4～6月期の成長率は前期比0.2%まで減速、住宅や個人消費の指標の弱さも目立つが、CPIは目標の2%を大きく上回り、且つ、一層の上振れが見込まれることがある。

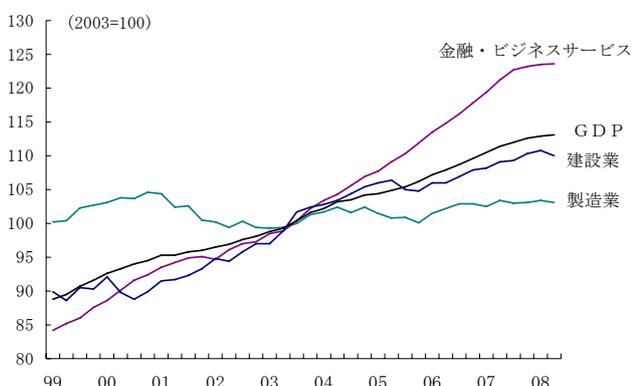
BOEは、信用収縮、マインド悪化が進む中での政策金利据え置きは、中期的な物価安定への強い意志を示すと考えている。今後は、景気後退が視野に入り、中期的(2年後)なインフレ目標達成の下振れのリスクが強まったと判断でき次第、利下げを再開するだろう。13日公表の雇用統計と今回のMPCの叩き台となった「インフレ報告」8月号のトーンに注目したい。

1、マイナス成長は免れたが景気の減速は明らかに

イングランド銀行(BOE)は6～7日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利の5.0%での据え置きを決めた。BOEは昨年12月、今年2月、4月にそれぞれ25bpの利下げを実施しているが、以後、政策金利の据え置きを継続している。

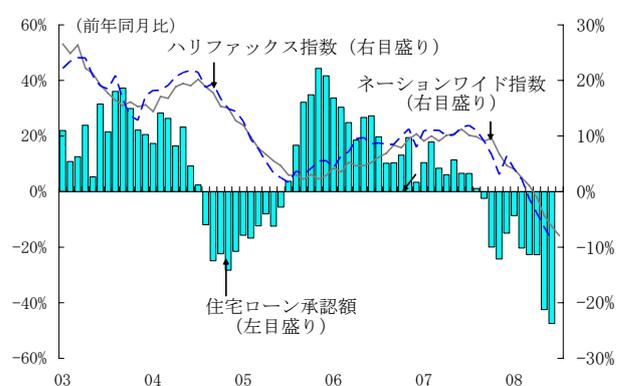
イギリスの4～6月期の成長率は、1～3月期の前期比0.3%に続き、同0.2%と低調であった。長期に亘り停滞している製造業の不振が続いた上に、これまで成長の牽引役であった金融・ビジネス・サービスが失速、建設業の大幅な落ち込みも響いた(図表1)。住宅市場では、価格の下落幅と住宅ローンの減少幅が共に拡大、調整色は一段と強まっている(図表2)。

図表1 実質GDP成長率



(資料) ONS

図表2 住宅価格指数と住宅ローン承認額

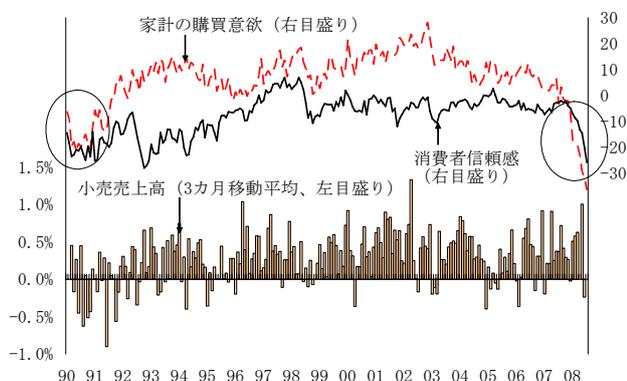


(資料)ハリファックス、ネーションワイド、DCLG、BOE

消費者マインドも一段と大きく悪化、90年代初頭の不況期を下回る水準まで下げている。小売売上高は、月次の動きは不規則ながらも基調は持ちこたえてきたが、6月は3カ月移動平均で前期比0.2%の減少となり弱さを見せ始めた（図表3）。

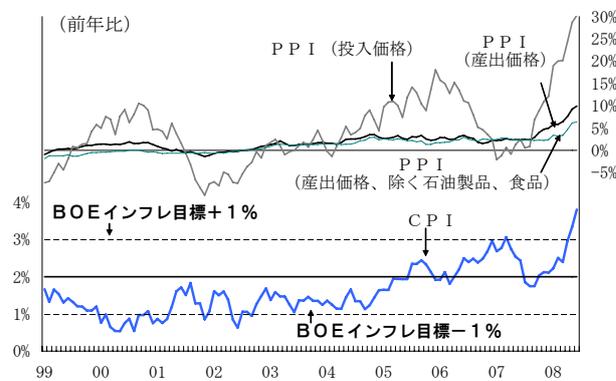
以上のように景気減速傾向は強まっているが、BOEが金融政策の目標としている消費者物価上昇率（以下、CPI）は「年後半さらに急上昇して4%を超える（5月CPIの3%突破の理由を説明するキング総裁のダーリング蔵相あて書簡）」との見通しどおり、6月は前年同月比3.8%と4%が目前に迫った。生産者物価では投入価格が前年同月比30.3%まで跳ね上がり、05~06年の投入価格の上昇局面では抑えられてきた産出価格への転嫁も見られるようになっている（図表4）。原油価格は今年7月のピーク比では下落に転じたが、なお前年同月の水準を大きく上回っており、先行きCPIの一段の高進は免れないことが据え置き背景にある。

図表3 イギリスの消費者信頼感と小売売上高



(資料) Eurostat、ONS

図表4 イギリスの物価指数



(資料)ONS

2、追加利下げのタイミングを見極める材料として13日公表の雇用統計、「インフレ報告」に注目

今回のMPCの議事録は20日に公表される。7月は、ハト派のランチフラワー委員が、景気減速が明確になる中で賃金インフレのリスクは低いとして25bpの利下げ票を投じる一方、タカ派のベイズリー委員は、中期的なインフレ期待の安定化を理由に25bpの利上げに票を投じた。結果として、「信用収縮、マインド悪化が進む現状での利上げは景気の下振れリスクを増大させるおそれがある」、「MPCの物価安定への強い意志は、政策金利の維持で十分示すことができる」との意見が7票と大層を占めたことが分かっている。前回MPC以降も成長鈍化とインフレ加速は続いており、今月も据え置き票が過半を占めながらも、票の分散が続いた可能性がある。

今後、BOEはCPIの目標からの乖離が続いていても、消費の下支えとなってきた雇用の悪化が明確になり、景気後退が視野に入ってくれば、中期的（2年後）にはインフレ目標を下回るリスクが強まったとして利下げを再開するだろう。13日に公表される雇用統計の内容と、今回のMPCの叩き台となった「インフレ報告」8月号のトーンに注目したい。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。